



医者というのは因果な商売です。病気に苦しむ人がいないと仕事になりません。しかし医者の多くは、人々が病気を治し地域で元気に暮らすことが、心からの喜びなのです。

たばこの戦い

病気は治すのではなく予防したい。そう思い調べてみますと、世界保健機関(WHO)は「たばこによる病気は世界最大の回避可能な死亡原因」としていますし、また先進国で健康を破壊する原因としても、たばこは高血圧などを抑え第一位だと分かりました。

なるほど、予防にはまずたばこか！

さ さ き な お ひ で
佐々木直英 17期生、1994年卒



診療所前の桜。佐々木医師は「禁煙し来年も一緒に花見かな」と一句

登米市立米谷病院上沼診療所

【私の勤務地】宮城県の北のはずれ、人口約9万人の登米市・北上川沿いの無床診療所。レントゲンさえなし。午前外来・午後訪問診療で、約40人の寝たきりの患者さんを受け持つ。金と物がない部分は、医師1人、看護師2人、事務1人の少数精鋭部隊の知恵と工夫でまかなっている。

病気を治す以前に予防に力

確かに肺がんをはじめ、たばこによる病気に毎日お会いします。中には既に手遅れの人

も少なくありません。「たばこさえなければ救えるのに...」。そこから私とたばこの戦いが

始まりました。外来受診者に禁煙を勧め、禁煙外来も開設しました。禁煙で

きた人から「たばこをやめられ」とは思わなかった。あきらめないでよかったですよ」とか、「せ

たばこの害から一人でも多くの人を救うには、①たばこの値上げ②環境整備、が有効です。今年六月にタイ・バンコクで行われたたばこ規制枠組み条約会議では、日本を含む百二十六カ国は二〇一〇年二月までに、屋

外を含むすべての公共の場、室内、交通機関、飲食店などを、分煙ではなく完全禁煙とすることにしました。

それを考えれば、栃木県庁の喫煙室の問題や、宇都宮市の罰則付き路上禁煙条例も、結論はおのずと見えてくるのではないのでしょうか？

分煙でなく禁煙

今、どこでも医者が足りないといわれます。「医者が足りないなら患者を減らそう!」。私はそう思います。予防医学に力を入れ、みんなが「元気で長生き」できれば必然的に医者は少なくて済みます。医療費もかかりません。「医者は余っているのではなにか?」と言われ、医者が失業問題に悩む日を夢見て、今日も診療に励みます。

(次回予定は愛知県)

を憎まず」です。